

世界から取り残される日本の「男女平等」

●ジェンダーギャップ指数 2019 で日本は過去最低を更新

「経済・教育・健康・政治」の4分野のデータを基にして、男女格差の大きさを国別に比較した「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数(GGGI) 2019年版」が発表されました。日本は、調査対象となった世界153カ国のうち、121位(2018年は110位)。過去最低の順位だった2017年の114位よりさらに下位となり、主要7カ国(G7)では依然として最低ランクです。世界では「政治」分野への女性の参画が改善したことで、全体としてジェンダーギャップが改善しています。比較のために使用されている下院議員の女性割合は25.2%。これに対し日本の数値は以下の通りです。

| | 総数 | 女性数 | 割合 | |
|-------------|-----|-----|-------|--------------|
| 日本(衆院議員) | 465 | 46 | 10.1% | 令和元年12月20日現在 |
| 北海道(道議会議員) | 100 | 11 | 11.0% | 令和元年12月23日現在 |
| 苫小牧市(市議会議員) | 28 | 4 | 14.2% | 令和元年12月13日現在 |



フィンランドの首相に選ばれたマリン氏(右から2人目)と3人の女性閣僚 提供=ロイター

●GGGI 第3位のフィンランドでは現職最年少34歳の女性首相が就任

2019年12月10日、北欧フィンランドの新首相に、サンナ・マリン社会民主党党首(34)が就任し、現職で世界最年少の首相となりました。「年齢」や「性別」に制限されることなく、躊躇せず力を出し切ってくれるであろう彼女たちの、凛々しい表情が非常に印象的です。

日本の「男女平等」の現在地

●日本国憲法に女性の権利を〜母ベアテ・シロタ・ゴードンの願い〜



2019年8月29日、日本国憲法の草案作成に携わった故ベアテ・シロタ・ゴードンさんの長女、ニコール・A・ゴードンさんによる特別講演が、国立女性教育会館(NWEC)で開催されました。日本女性の低い地位をなんとか改善したいと考えたベアテさんが提出した、詳細かつ力強い草案は、現憲法の第14条「法の下での平等」第24条「両性の本質的平等」に残されています。ニコールさんは、「次世代を育てるという仕事は一生終わりません。ベアテを知っている世代の方たち、ぜひ過去との架け橋となって、現憲法ができてからの女性をとりまく変化を共有してください。」と熱く語りました。次に若い人たちに向けて、「今持っている権利を当然と考えるな。知識と視野を広げて、多くの人々の努力で達成された権利を勇気とエネルギーをもって守って行ってください。」と語り、最後にベアテさんとも深い親交のあった市川房枝さんの言葉「平和なくして平等なし、平等なくして平和なし」を引用してスピーチを締めくくりました。

*QRコードより、実際の講演会の様子を視聴いただけます

*出典：国立女性教育会館ホームページ <https://www.nwec.jp/>



●過去から現在、そして未来へ

ベアテさんが憲法に女性の権利について書いてから、日本における女性の地位が今日のように向上するまでに、およそ75年もの歳月を要しました。先に紹介したフィンランドのように、明日急に、日本の政権に若い女性大臣の顔が並ぶ、ということはないかもしれませんが、しかし、5年後、10年後の未来はどうなっているのでしょうか。

社会を形成しているのは、私たちひとりひとりです。変革は、ひとりひとりの小さなステップの積み重ねからしか起こりえません。私たちの子や孫たちが過ごす未来の日本を、全ての人が、可能性に蓋をされることなく生き生きと過ごせる社会にできるかどうかは、まさに今を生きる私たちの選択や行動に委ねられているのです。